

競技ダンス部の草創期

昭和38年(1963年)卒業 長谷川輝夫

昨年8月初めてOB会に出席して仰天した。半世紀前に私達が創り上げたダンス部がまだ続いていて、しかも多数の部員と技術レベルの高さにビックリ。長い間にはクラブの栄枯盛衰もあったと推定される。困難な時期に、必死に乗り越えた後輩部員にただ感謝! 多くの優秀な後輩部員のお陰で今日のダンス部があると思う。

さて私はダンス部が創設された翌年、昭和34年(1959年)4月入学した。当時部員は少なくいつつぶれてもおかしくない状態でした。女子学生が少なくて練習に困り、やむなく栄養専門学校や看護学校の学生を準部員として練習していました。学内の練習では今一なので私達は都内のダンス教室に通っていました。アルバイトで稼いだ金をレッスン料にあてました。交通費を節約するため、ダンス教室に了解を取り、住所をダンス教室に移したと学生課に嘘の報告をして、高田馬場と稲毛(当時千葉大は稲毛でした)の間の通学定期を購入してダンス教室に通っていました。当時は学生数が少なく、学生は優遇されていて学割は非常に安く80%OFFくらいでした。当時は学生の間でダンスが流行っていて、学生の団体レッスンがはやりでした。私は教習所仲間の紹介で渋谷と四ツ谷で教えることになり、かなり割のいいアルバイトでした。渋谷では青山学院生が多く、四ツ谷では上智大生が殆どでした。

私が2年の時、つまり創部3年目で千葉大は全日本学生舞踏選手権にエントリーしました。ワルツ、タンゴを主に8名の選手団でした。当時の男子は学生服で女子は結婚式の花嫁の様な衣装でした。男子学生中心の時代でしたのでパートナーはセミプロでも何ら問題はありませんでした。私は教習所の紹介でセミプロをパートナーにして踊りました。しかし成績は今一でした。

学内での練習場は木造教室でした、フロアーに隙間があり、回転に苦労しました。12月には食堂でのクリスマスパーティが楽しみでした。会場にあふれるように学生が集まり、盛況でした。女子校より女子を招待しましたが、男子が多く、女子はモテモテでした。当時稲毛の千葉大の周りは畑や山林が多く、クリスマスツリーは部員が近くの山林からだまって、頂戴してきました。かなりおおらかな時代でした。